

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート

作成日:2015年10月28日

責任者	言語コミュニケーション文化研究科委員長	作成部局	言語コミュニケーション文化研究科
-----	---------------------	------	------------------

A-1	言語コミュニケーション文化研究科の理念		変更の有無
	<p>本研究科は本学の「人間化の徹底」「実学化への志向」「総合化への努力」「情報化への徹底」「国際化の追求」の5つの基本理念のもとに高度な言語コミュニケーション能力を備え、建学の精神に基づく豊かな人間性と国際的・文化的視野をもった、高度の学問的専門性を備えた人材を輩出し、社会に貢献することを理念として掲げる。</p> <p style="text-align: right;">(Webサイト)</p>		<input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し
A-2	言語コミュニケーション文化研究科の人材の養成に関する目的 その他の教育研究上の目的(学則上)	言語コミュニケーション文化研究科の目的(Webサイト上)	変更の有無
	<p>本研究科は、本学の基本理念のもとに高度な言語コミュニケーション能力を備え、建学の精神に基づく豊かな人間性と国際的・文化的視野をもった、高度の学問的専門性を備えた人材を養成し、社会に貢献することを理念とする。前期課程では、高度な言語コミュニケーション能力を養成し、その基盤の上に言語及び言語使用の実態を追求する言語科学、言語と深く結びついた文化学、さらに言語コミュニケーション能力をいかにして効果的に習得させるかという方法論を探究する言語教育学、外国語としての日本語教育の方法を探究する日本語教育学の研究を推進することによって、言語コミュニケーション文化を総合的に研究することを目的とする。後期課程では、前期課程で培った幅広い知識と研究能力を、言語コミュニケーション能力の理論的解明に特化した、高度で先進的な研究へと結実させる。また博士論文作成の指導を通してさらに総合的、専門的に深く研究し、「言語コミュニケーション文化学」の深化、発展に努める。</p>	<p>高度な言語コミュニケーション能力を養成し、その基盤の上に言語および言語使用の実態を追求する言語科学、言語と深く結びついた文化学、さらに言語コミュニケーションをいかにして効果的に習得させるかという方法論を探究する言語教育学、外国語としての日本語教育の方法を探究する日本語教育学の研究を推進することによって、言語コミュニケーション文化を総合的に研究することを目的とする。</p> <p>前期課程では、大学院レベルにおける高度な言語コミュニケーション能力の養成と、その基盤の上で言語に関する四つの領域・プログラムで研究をすすめる。すなわち、1. 言語及び言語使用の実態を追求する言語科学領域・言語科学プログラム、2. 言語に支えられた文化を研究する言語文化学領域・言語文化学プログラム、3. 言語コミュニケーション能力養成の方法論を探究する言語教育学領域・言語教育学プログラム、4. 外国語としての日本語教育の方法論を探究する日本語教育学領域・日本語教育学プログラムを設定し、研究する。</p> <p>後期課程では、前期課程で培った幅広い知識と研究能力を、言語コミュニケーション能力の理論的解明に特化した、高度で先進的な研究へと結実させる。また博士論文作成の指導を通してさらに総合的、専門的に深く研究し、「言語コミュニケーション文化学」の深化、発展に努める。</p>	<input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し
	めざす学生像		変更の有無
	<ul style="list-style-type: none"> ・高度な言語コミュニケーション能力を身に付け、研究やビジネスにおいて国際的に活躍できる学生 ・異文化理解をベースとしたグローバルな視野を持った学生 ・国際的に活躍できる英語および日本語教員を目指す学生 ・言語の実態を研究する言語科学、各言語(英語、フランス語、ドイツ語、中国語など)の背景にある文化を研究する言語文化学、実践的な言語教育方法を探求する言語教育学、外国語としての日本語教育を探究する日本語教育学の各分野についての知見を深め、さらなる発展をもたらすことのできる学生 		<input checked="" type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> 無し

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート

作成日:2015年10月28日

責任者	言語コミュニケーション文化研究科委員長	作成部局	言語コミュニケーション文化研究科
-----	---------------------	------	------------------

学位授与方針(ディプロマ・ポリシー;DP)	変更の有無
<p>本研究科は、本学の基本理念のもとに高度な言語コミュニケーション能力を備え、建学の精神に基づく豊かな人間性と国際的・文化的視野をもち、高度の学問的専門性を備えた人材を養成し、社会に貢献することを理念とする。前期課程では、高度な言語コミュニケーション能力を養成し、その基盤の上に、言語科学、言語文化学、言語教育学、日本語教育学の研究を推進することによって、言語コミュニケーション文化を総合的に研究することを目的とする。後期課程では、前期課程で培った幅広い知識と研究能力を、言語コミュニケーション能力の理論的解明に特化した、高度で先進的な研究へと結実させる。また博士論文作成の指導を通してさらに総合的、専門的に深く研究し、「言語コミュニケーション文化学」の深化、発展に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 言語科学 言語及び言語使用の実態を究明し、言語のメカニズムを明らかにするための幅広い知見を得ることを目指す。 ○ 言語文化学 英語圏・フランス語圏・ドイツ語圏・中国語圏等の文化研究や異文化理解を探究し、そのメカニズムを明らかにするための幅広い知見を得ることを目指す。 ○ 言語教育学 言語コミュニケーション能力をいかにして効果的に習得させるかという方法論を探究し、教材や教授法の開発を含め第二言語習得のメカニズムの解明のための幅広い知見を得ることを目指す。 ○ 日本語教育学 日本語非母語話者を対象にいかにして効果的に日本語を習得させるかという方法論を探究し、日本語の研究、日本語の習得の研究、教材教授法の研究、言語と文化との関係の研究を含め日本語習得のメカニズムを解明するための幅広い知見を得ることを目指す。 	<input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し

A-1. 「理念」、A-2. 「目的」「めざす学生像」「学位授与方針」に関する、適切性および検証体制・検証プロセスの確認		チェック欄
【確認1】	「言語コミュニケーション文化研究科の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的(学則上)」は、「A-1. 言語コミュニケーション文化研究科の理念」に沿い、めざす方向性を適切に表現しているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認2】	「言語コミュニケーション文化研究科の目的(Web サイト上)」は、A-2「言語コミュニケーション文化研究科の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的(学則上)」に沿った内容であり、社会に対して分かりやすい表現になっているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認3】	「めざす学生像」と「学位授与方針」は、A-2「言語コミュニケーション文化研究科の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的(学則上)」、「言語コミュニケーション文化研究科の目的(Web サイト上)」と整合性が取れ、目的の実現に向けて相応しい内容となっているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認4】	学位授与方針は、学位授与にあたり、学位授与基準および当該学位に相応しい学習成果を明確に示しているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認5】	学位授与方針に基づく学習成果を測定するための評価指標を開発し、適切に成果を測るよう努めているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認6】	目的、「めざす学生像」、「学位授与方針」は周知・公表されているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
適切性の検証体制を明確にしているか	責任主体・組織(承認・決裁)	研究科委員会(議長:研究科委員長)
	検証手続き	研究科自己評価委員会での審議を経て、毎年10月の研究科委員会において決裁・承認している。
	決定・判断時期	毎年10月
	検証エビデンス	研究科委員会・議事録
検証プロセスを適切に機能させているか		<input checked="" type="checkbox"/> 1. 機能させている <input type="checkbox"/> 2. 機能させていない
	検証方法(指標、測定方法など)	研究科執行部が、学生への理解度をはかる。
	成果	<input checked="" type="checkbox"/> 成果あり(内容:修了生アンケートの集計結果) <input type="checkbox"/> 成果なし
	改善・伸長に向けた	<input checked="" type="checkbox"/> 計画あり(内容:研究科委員会で報告し、教員から改善・伸長に向けたフィードバックを得る) <input type="checkbox"/> 成果あり
	検証エビデンス	修了生アンケートの結果
周知・公表方法	<input checked="" type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input checked="" type="checkbox"/> 履修心得 <input checked="" type="checkbox"/> 学院Webサイト <input checked="" type="checkbox"/> パンフレット、リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他()	

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート

作成日:2015年10月28日

責任者	言語コミュニケーション文化研究科委員長	作成部局	言語コミュニケーション文化研究科
-----	---------------------	------	------------------

A-3

教育研究目標		変更の有無
目標1	(タイトル) 4領域の垣根を低くするカリキュラム改編	<input checked="" type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> 無し
	(狙い・内容) 前期課程では、言語科学領域、言語文化学領域、言語教育学領域、日本語教育学領域のうちから一つの研究領域を選ぶが、言語コミュニケーション文化を横断的・総合的な研究を可能にするために、現行よりさらに自由度を高めた柔軟なカリキュラムに改編する。	
目標2	(タイトル) 英語教員対象1年制修士学位コースの設置	<input checked="" type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> 無し
	(狙い・内容) すでに実績を持つ英語教員が、短期間で高度な専門的研究を行い、同時に教育能力のさらなる向上を達成するために、1年で修士学位を取得可能なコースを設置する。	
目標3	(タイトル) 前期課程入試制度のあり方の検討	<input checked="" type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> 無し
	(狙い・内容) 前期課程の新生生の人数およびバックグラウンドを精査し、入学定員を充足できない状況が続く場合、入試制度のあり方を検討し、入試制度改革を実行する。	

A-3. 「教育研究目標」に関する、適切性および検証体制・検証プロセスの確認		チェック欄
【確認1】	「教育研究目標」は、A-2「目的」、「めざす学生像」の実現に向けて、相応しい内容であるか、適切な表現であるか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認2】	「教育研究目標」は、教育の質向上に向けた意欲的な内容になっているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認3】	「教育研究目標」は、周知・公表されているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
適切性の検証体制を明確にしているか	責任主体・組織(承認・決裁)	研究科委員会(議長:研究科委員長)
	検証手続き	研究科自己評価委員会での審議を経て、毎年10月の研究科委員会において決裁・承認している。
	決定・判断時期	毎年10月
	検証エビデンス	研究科委員会・議事録
検証プロセスを適切に機能させているか		<input checked="" type="checkbox"/> 1. 機能させている <input type="checkbox"/> 2. 機能させていない
	検証方法(指標、測定方法など)	研究科執行部が、研究科教員への浸透度をはかる。
	成果	<input checked="" type="checkbox"/> 成果あり (内容:研究科教員アンケートの集計結果) <input type="checkbox"/> 成果なし
	改善・伸長に向けた	<input checked="" type="checkbox"/> 計画あり (内容:研究科教員アンケートの集計結果をふまえて研究科執行部が改善策を検討する) <input type="checkbox"/> 成果あり
	検証エビデンス	研究科教員へのアンケート結果
周知・公表方法	<input type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input type="checkbox"/> 履修心得 <input type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> パンフレット、リーフレット等 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (研究科委員会記録)	

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート

作成日:2015年10月28日

責任者	言語コミュニケーション文化研究科委員長	作成部局	言語コミュニケーション文化研究科
-----	---------------------	------	------------------

A-4	教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー;CP)	変更の有無
	<p>言語科学、言語文化学、言語教育学、日本語教育学の四領域のうちから一つを選ぶが、他の領域の科目も自由に履修できるような柔軟なカリキュラムを設定している。ネイティブ・スピーカーが中心となって言語コミュニケーション能力養成科目を担当し、原則として授業を研究対象言語で行うことによって、高度な言語コミュニケーション能力を養成する。また日本語教育学プログラムでは、実習科目を通して実践能力を養成する。これらの履修・指導を通じて、高度な言語コミュニケーション能力を基盤とした言語コミュニケーション文化の総合的な研究が行えるようにカリキュラムを配置する。</p> <p>後期課程では個別指導(インディペンデント・スタディ)と集団指導(言語コミュニケーション文化セミナー)によって博士論文執筆を指導し、独立した研究者を育成することを旨とする。</p>	<input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し

A-4. 教育課程の編成・実施方針に関する、適切性および検証体制・検証プロセスの確認		チェック欄
【確認1】	教育課程の編成・実施方針は、A-2「めざす学生像」、「学位授与方針」、A-5「学生の受け入れ方針」と整合性が取れているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認2】	教育課程の編成・実施方針は、A-3「教育研究目標」の達成に向けて相応しい内容となっているか、表現は適切か。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認3】	教育課程の編成・実施方針は、教育課程の編成や、教育内容、教育方法等に関する考え方を明確に示しているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認4】	学位授与方針の内容を実現するために、教育課程の編成・実施方針は適切な内容となっているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認5】	教育課程の編成・実施方針は周知・公表されているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
適切性の検証体制を明確にしているか	責任主体・組織(承認・決裁)	研究科委員会(議長:研究科委員長)
	検証手続き	研究科自己評価委員会での審議を経て、毎年10月の研究科委員会において決裁・承認している。
	決定・判断時期	毎年10月
	検証エビデンス	研究科委員会・議事録
検証プロセスを適切に機能させているか		<input checked="" type="checkbox"/> 1. 機能させている <input type="checkbox"/> 2. 機能させていない
	検証方法(指標、測定方法など)	研究科執行部が、研究科教員への浸透度をはかる。
	成果	<input checked="" type="checkbox"/> 成果あり (内容:研究科教員アンケートの集計結果) <input type="checkbox"/> 成果なし
	改善・伸長に向けた	<input checked="" type="checkbox"/> 計画あり (内容:研究科教員アンケートの集計結果をふまえて研究科執行部が改善策を検討する) <input type="checkbox"/> 成果あり
	検証エビデンス	研究科教員へのアンケート結果
周知・公表方法	<input checked="" type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input checked="" type="checkbox"/> 履修心得 <input checked="" type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> パンフレット、リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他 ()	

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート

作成日:2015年10月28日

責任者	言語コミュニケーション文化研究科委員長	作成部局	言語コミュニケーション文化研究科
-----	---------------------	------	------------------

A-5

学生の受け入れ方針(アドミッション・ポリシー;AP)	変更の有無
言語コミュニケーション文化研究科は、高度な言語コミュニケーション能力を備え、建学の精神に基づく豊かな人間性と国際的視野をもった、高度の学問的専門性を備えた人材を輩出し、社会に貢献することを理念としています。その理念を実現するために、本研究科では次のような人材を求め、入学試験要項に定める試験科目を設定し、入学者選抜を行います。 ・高度なコミュニケーション能力を身に付け、研究やビジネスにおいて国際的に活躍したいと考えている人 ・異文化理解をベースとしたグローバルな視野を持ちたいと考えている人 ・国際的に活躍できる英語および日本語教員を目指している人 ・言語の実態を研究する言語科学、各言語(英語、フランス語、ドイツ語、中国語など)の背景にある文化を研究する言語文化学、実践的な言語教育方法を探求する言語教育学、外国語としての日本語教育を探求する日本語教育学の研究をしたいと考えている人	<input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し

A-5. 学生の受け入れ方針に関する、適切性および検証体制・検証プロセスの確認		チェック欄
【確認1】	学生の受け入れ方針は、A-2「学位授与方針」、A-4「教育課程の編成・実施方針」と整合性が取れているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認2】	学生の受け入れ方針は、理念・目的、教育研究目標を踏まえ、入学時に求める学生像や、修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにしているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認3】	学生の受け入れ方針と、実際の学生募集方法、入学者選抜の実施方法は整合性が取れているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認4】	学生の受け入れ方針は、周知・公表されているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
適切性の検証体制を明確にしているか	責任主体・組織(承認・決裁)	研究科委員会(議長:研究科委員長)
	検証手続き	研究科自己評価委員会での審議を経て、毎年10月の研究科委員会において決裁・承認している。
	決定・判断時期	毎年10月
	検証エビデンス	研究科委員会・議事録
検証プロセスを適切に機能させているか		<input checked="" type="checkbox"/> 1. 機能させている <input type="checkbox"/> 2. 機能させていない
	検証方法(指標、測定方法など)	研究科執行部が、新入生への浸透度をはかる。
	成果	<input checked="" type="checkbox"/> 成果あり (内容:研究科教員アンケートの集計結果) <input type="checkbox"/> 成果なし
	改善・伸長に向けた	<input checked="" type="checkbox"/> 計画あり (内容:研究科教員アンケートの集計結果をふまえて研究科執行部が改善策を検討する) <input type="checkbox"/> 成果あり
	検証エビデンス	新入生へのアンケート結果
周知・公表方法		<input checked="" type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input type="checkbox"/> 履修心得 <input checked="" type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> パンフレット、リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他 ()

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート

作成日:2015年10月28日

責任者	言語コミュニケーション文化研究科委員長	作成部局	言語コミュニケーション文化研究科
-----	---------------------	------	------------------

A-6

学生支援に関する方針		変更の有無
以下につき、整備・維持を図る。		<input checked="" type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> 無し
修学支援	FD研修会において、本研究科のカリキュラム構成、授業内容、教授法、設備、施設、および本研究科で運営する言語コミュニケーション文化学会とその関連行事に関して学生の意見を聴取し、教員との間で議論を交わすことによって、本研究科における教育・研究環境の全般的改善に結びつける。	<input checked="" type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> 無し
生活支援	問題を抱える学生に対して、学生支援相談室と連携して対応する支援体制を構築している。	<input checked="" type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> 無し
進路支援	後期課程進学希望者に対して、教員・事務局が適切にアドバイスできる体制を構築している。	<input checked="" type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> 無し

A-6. 学生支援に関する方針について、適切性及び検証体制・検証プロセスの確認		チェック欄
【確認1】	学生支援の方針(修学支援、生活支援、進路支援)は、理念・目的、入学者の傾向等の特性を踏まえた内容になっているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認2】	方針に沿って、修学支援、生活支援、進路支援のための仕組みや体制を整備し、適切に運用しているか。 (下記のことが明らかであることに留意する。) <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <修学支援> ・留年者及び休・退学者の状況把握と対処 ・学生の能力に応じた補習・補充教育の実施 ・障がい学生に対する修学支援の実施 ・奨学金等の経済的支援の実施 <生活支援> ・学生相談室等、学生の相談に応じる体制の整備、学生への案内 ・各種ハラスメント防止に向けた取り組み </div>	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認3】	学生の進路支援は、入学者の傾向等の特性を踏まえながら、進路選択に関わる指導・ガイダンスの実施の点から取り組んでいるか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認4】	学生支援に関する方針(修学支援、生活支援、進路支援)は、教職員で共有されているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
適切性の検証体制を明確にしているか	責任主体・組織(承認・決裁)	研究科委員会(議長:研究科委員長)
	検証手続き	自己点検・評価委員会での審議を経て、毎年1月の研究科委員会において決裁・承認している(ただし、学生のプライバシーに関する案件は研究科執行部会にとどめる)。
	決定・判断時期	毎年1月
	検証エビデンス	研究科委員会・議事録
検証プロセスを適切に機能させているか	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 機能させている <input type="checkbox"/> 2. 機能させていない	
	検証方法(指標、測定方法など)	教員・学生の現状を把握の上、研究科執行部会において課題を整理している。
	成果	<input checked="" type="checkbox"/> 成果あり (内容:FD研修会での記録等) <input type="checkbox"/> 成果なし
	改善・伸長に向けた	<input checked="" type="checkbox"/> 計画あり (内容:FD研修会での議論等を踏まえて改善策を研究科執行部会が検討する) <input type="checkbox"/> 成果あり
	検証エビデンス	研究科執行部会記録
周知・公表方法	<input type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input type="checkbox"/> 履修心得 <input type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> パンフレット、リーフレット等 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (研究科委員会資料)	

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート

作成日:2015年10月28日

責任者	言語コミュニケーション文化研究科委員長	作成部局	言語コミュニケーション文化研究科
-----	---------------------	------	------------------

A-7

教員像		変更の有無
研究の学際性に関心をもち、「言語コミュニケーション文化」研究および教育の実践に寄与できる教員		<input checked="" type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> 無し

無しの場合どのように設定するか？	責任主体・組織	
	設定方法	
	設定見込み時期	

教員組織の編制方針		変更の有無
・幅広い教育のために教員の研究分野が偏らないこと ・教育研究の活性化を図るために若手教員を任用すること ・男女共同参画の推進のために女性教員を積極的に任用すること		<input checked="" type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> 無し

A-7. 教員像、教員組織の編制方針に関する、適切性および検証体制・検証プロセスの確認 チェック欄

【確認1】	教員像は、教員に求める能力・資質、教育に対する姿勢等を明確にしているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認2】	教員組織の編制方針は、組織的な教育を実施する上において、必要な役割分担や規模(人数)、教員の専門分野やスキル構成、責任体制、を明確にしているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認3】	教員像・教員組織の編制方針は教職員で共有されているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
適切性の検証体制を明確にしているか	責任主体・組織(承認・決裁)	研究科委員会(議長:研究科委員長)
	検証手続き	研究科自己点検委員会での審議を経て、毎年10月の研究科委員会において決裁・承認している。
	決定・判断時期	毎年10月
	検証エビデンス	研究科委員会・議事録
検証プロセスを適切に機能させているか	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 機能させている <input type="checkbox"/> 2. 機能させていない	
	検証方法(指標、測定方法など)	研究科執行部が、教員の編制状況を確認する。
	成果	<input type="checkbox"/> 成果あり(内容:) <input checked="" type="checkbox"/>成果なし
	改善・伸長に向けた	<input type="checkbox"/> 計画あり(内容:) <input checked="" type="checkbox"/>成果あり
	検証エビデンス	研究科教員一覧
周知・公表方法	<input checked="" type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input type="checkbox"/> 履修心得 <input type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> パンフレット、リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他()	